

ドラえもんにおける植物学

農学研究科 修士二回生 中野周平

『ドラえもん』という作品にはよく植物が登場し、中でも『さらばキー坊』『雲の王国』など、自然環境との調和や破壊というテーマを扱った話が多い印象が筆者にはある。もしかすると読者の方にも同じように感じている人もいるかもしれない。そこで、今回藤子・F・不二雄大全集をすべて見返し、「植物」「生態系」「農業」「環境」を扱った話をリストアップしてみた（抜け・漏れ等はおそらくあるが...）。まずはそのリストを雑誌掲載順で示す。なお、ハイキングや宝探しなど、山へ行くけれど植物とは関係の無い話については除外した。

表：ドラえもんが登場する植物関連の話一覧

タイトル	植物学との関連性	ジャンル	初出	学年
白ゆりのような女の子	疎開先で畑仕事	農業	1970年6月	小四
ケーキを育てよう	ケーキを埋めて水を描けると木が生えてケーキがなる	植物	1970年3月	幼稚園
のぞきお化け	ジャガイモとトマトを一本の木で作るスネ夫と、朝顔にナスをならせようとするのび太	農業	1970年8月	小四
もちつきロボット	かかしロボット、もちつきロボット、たんぼ	農業	1971年1月	よいこ
わすれる草	わすれる草はわすれな草のパロディー	植物	1971年3月	小二
まほうのじゃぐち	木に蛇口を取り付けるとジュースが出る	植物	1971年5月	小一
メロディーガス	イモそのもの	植物	1971年12月	小三
クリスマスツリーのたね	インスタントツリー？「重カベンキ」のと同じ？	植物	1971年12月	小一
花さくはい	灰をかける去何にでもにも花が咲く	植物	1972年4月	小一
ぼくの生まれた日 (映画版)	のび太の命名に樹木が関わっている。広葉樹。樹種は不明。 ムサシノケヤキ（むさしの1号）っばい	植物	1972年8月	小四
なんでもツリー	ボタンを押すとリンゴや毛虫がなる	植物	1972年10月	よいこ
重カベンキ	インスタントツリー（種を植えるとツリーが生える）	植物	1972年12月	小三
アパートの木	根っこが空洞化して住居スペースになる	植物	1973年6月	小五
のび太漂流記	パンの木はパンノキのパロディー	植物	1973年7月	小五
タタミのたんぼ	趣味の日曜農業セット	農業	1974年1月	小四
らく音フラワー	種を植えて、音楽を聞かせながら育てる	植物	1975年8月	小五
ぼく、桃太郎のなんなのさ	モモボートは桃の形	植物	1975年9月	小四
もどりライト	タタミ、ウイスキーの原料が分かる	植物	1977年2月	小四
人生やりなおし機	材木置き場の存在	植物	1977年4月	小四
へやの中の大自然	立ち木スタンドで木が生える	植物	1977年7月	小六
オールシーズンバッジ	秋でも桜が咲く	植物	1977年10月	小六
バタバタフライ	花ジュース	植物	1978年4月	小一
植物ペン	描いた絵の通りの植物が生える	植物	1978年6月	小二
フェールうえ木ばち	何でも植えると実がなって数が増える	植物	1978年7月	小一
ひい木	木の形	植物	1978年8月	小三
季節カンヅメ	桜が咲いたり柿の実がなったりする。オールシーズンバッジと同じ性能？	植物	1978年9月	小三

タイトル	植物学との関連性	ジャンル	初出	学年
テレパしい	テレパしいはシイのパロディー	植物	1978年10月	小五
だいこんダンスパー ティー	新種植物製造機で植物を改造できる	植物	1979年4月	小四
たんぼぼぐし	髪がたんぼぼの綿毛ようになる	植物	1979年6月	小一
タンポポ空を行く	タンポポとの交流	植物	1979年6月	てれびくん
のび太の地底国	日曜農業セットで田植え	農業	1980年2月	小五
森は生きている	心の土で裏山と交流。草木が意思を持つ	植物	1981年1月	てれびくん
そっくりかかし	家の玄関前にツクシが生えている	植物	1981年4月	小二
平和アンテナ	葉の形。平和の象徴？	植物	1981年5月	てれびくん
やどり木で楽しく家出	やどり木はヤドリギのパロディー	植物	1981年6月	小六
昔はよかった	畑仕事。アワのおかゆも登場	農業	1981年7月	小六
植物歩かせ液	植物に足が生えて歩けるようになる	植物	1981年8月	小一
大魔境	植物改造エキスⅠ：食べ物の入った実がなる	植物	1981年9月	コロコロ ミック
大魔境	植物改造エキスⅡ：樹木の一部が足場になる	植物	1981年9月	コロコロ ミック
ハツメイカーで大発明	オールシーズン花だんを作る。どの季節の花でも育てられる	植物	1981年10月	小三
しずちゃん心の秘密	日曜農業セットでサツマイモ作り	農業	1982年10月	小六
石器時代のホテル	自動販売機（ランチのカプセル）がヤシの木のような見た目	植物	1982年10月	小三
ロビンソンクルーソー セット	食べ物さがしめがなで、毒の無い実が分かる	植物	1983年5月	小四
虫よせボード	草花の絵に虫が寄ってくる	生態系	1983年7月	小一
一晩でカキの実がなった	カキの木にまつわる物語	植物	1983年11月	小六
さらばキー坊	植物自動化液をかけると植物の外見も変わり、知性も持つようになる。植物星との交流も。	植物・環境	1984年4月	小四
箱庭で松たけがり	赤松山と松たけの菌糸	植物	1984年11月	小三
生き物しいくジオラマ ブック	ジオラマで生き物を育てる	生態系	1985年8月	小一
ジャック豆	豆を植えると豆の木が伸びる	植物	1985年11月	小一
ないしょ話…	シャベリリップとミミダケの形がチューリップとキノコのパロディー	植物	1985年12月	小三
何が何でもお花見を	花さかばい	植物	1986年4月	小三
光ファイバーつた	つたが伸びて光ファイバーの機能を持つ	植物	1986年6月	小六
タイム・ルーム 昔のカキ の物語	源家のピワと野比家のカキ	植物	1988年7月	小四
日本誕生	花そのボンベ：しずちゃんは環境庁長官に	農業	1988年10月	コロコロ ミック
日本誕生	畑のレストラン：スネ夫は農林大臣に	農業	1988年10月	コロコロ ミック
アニマル惑星	植物あやつり機：植物細胞を一時的に動物化する。裏山開発計画への抵抗に使った。アニマル惑星でもニムゲ戦で使用	植物・環境	1989年10月	コロコロ ミック
アニマル惑星	ママによる環境汚染のおはなし	植物・環境	1989年10月	コロコロ ミック
高層マンション脱出大作 戦	ジャックの豆の木下半分。つまり根っこ	植物	1990年1月	小三
食べて歌ってバイオ花見	バイオ植木カンはDNA情報を素にクローンを作ることができ。大きさは自由自在。桜、ヤシの実、フルーツ盛り合わせ、トウモロコシ、サツマイモ、赤松とマツタケ・・・	植物	1990年5月	小三
ドラえもんがいなくても だいじょうぶ!?	紙の原料は木。それを植えに行く	植物・環境	1990年7月	小五-小六
ハワイがやってくる	阿寒湖のマリモの作り物	植物	1990年8月	小四
雲の王国	植物の元シリーズ：タネと肥料ミックス。	植物	1991年10月	コロコロ ミック

タイトル	植物学との関連性	ジャンル	初出	学年
雲の王国	地球の自然破壊とノア計画	植物・環境	1991年10月	コロコロ ミック
雲の王国	キー坊が植物植物星大統領	植物	1991年10月	コロコロ ミック
ブリキの迷宮	絶対安全救命いかだ：おべんとうの実つき	植物	1992年9月	コロコロ ミック
夢幻三剣士	ヨロバタイ樹は寄らば大樹の陰のパロディー	植物	1993年9月	コロコロ ミック
創生日記	朝顔の観察日記。日当たりや温度・湿度のちがいが朝顔の成長におよぼす影響	植物	1994年9月	コロコロ ミック
創生日記	植物改造エキス：Iと同じ効果	植物	1994年9月	コロコロ ミック
ねじ巻き都市冒険記	意思のある植物の星	植物	1996年9月	コロコロ ミック
ガラバ星からきた男	放射線が生物のDNAに特殊な影響を与え、連続的突然変異が起きる。それをうまくコントロールして進化させる。音の鳴るスズラン、菌糸をまけば3時間で育つキノコハウス、葉緑素を持つ家畜など	植物	1994年7-9月	小三-小五

● 植物をモチーフとしたひみつ道具

リストにざっと目を通してまず分かることは、植物をモチーフとしたひみつ道具の存在の多さである。ドラえもんの連載全期間に亘って登場する。これらは、①道具の効果は植物と関係ないが見た目が植物を模しているもの ②人工植物そのもの、あるいは人工植物を作るもの ③植物を制御するもの に大きく分類できる。それぞれについていくつか例を挙げながら考察してみよう。

・①道具の効果は植物と関係ないが見た目が植物を模しているもの

これには、「わすれろ草」「メロディーガス」「モモボート」「ひい木」「テレパしい」「平和アンテナ」「やどり木」「シャベリップ」「ミミダケ」がある。そのほとんどがダジャレによるものであり、例えば「わすれろ草」「ひい木」「テレパしい」は道具名の一部が植物名のダジャレになっているだけで、道具の効果自体は植物とは何の関係もない。一方で「メロディーガス」「やどり木」に関しては、その元となった「サツマイモ」と「ヤドリギ」の特性が、それぞれの道具使用時の効果に活かされている。「平和アンテナ」は葉の形をしているが、これは、旧約聖書のノアの箱舟のお話においてオリーブの葉が平和の象徴となっていることを意識したものであろう。

・②人工植物そのもの、あるいは人工植物を作るもの

これには、「まほうのじゃぐち」「クリスマスツリーのたね(インスタントツリー)」「花さくはい(花さかばい)」「なんでもツリー」「アパートの木」「立ち木スタンド」「植物ペン」「フェールうえ木ばち」「新種植物製造機」「心の土」「植物歩かせ液」

「植物改造エキスⅠ・Ⅱ」「植物自動化液」「ジャック豆」「光ファイバーつた」「畑のレストラン」「植物あやつり機」「ジャックの豆の木下半分」「バイオ植木カン」そしてガラパゴスの技術などがある。ひみつ道具自体が人工植物そのものであったりその種であったりするもの、ひみつ道具によって人工植物を作り出したり改造したりできるもの、の二種類に大きく分類できるだろう。「新種植物製造機」の登場を皮切りに、道具の使用者に植物の改造を行なわせるひみつ道具が多く登場するようになった。その多くは大長篇に登場し、中でも「植物改造エキス」は“植物改造系ひみつ道具”の中でも一位を争うほどの印象の強さで筆者の頭の中に刻まれている。

ところで、筆者が今回調べた限りでは、植物系ひみつ道具の説明に“遺伝情報”が使用されたのはこの「新種植物製造機」が初めてのようだ（1979年4月）。植物以外では、網羅的に調べてはいないが、「へやいっぱいの大ドラヤキ」に登場する「イキアタリバツタリサイキンメーカー」の説明がおそらく最初であると思われる（1979年1月）。どちらにしても、翌年から大長編ドラえもんが開始するこの1979年頃というタイミングで、DNAや遺伝情報という科学的説明を作中に取り入れたことは、『ドラえもん』という作品の科学分野での広がりをもたらしたきっかけと位置付けてよいだろう。

最後に注目したいのは「バイオ植木カン」である。初出は1990年、時代は平成に入り、社会で“バイオ”という言葉が普及してきた。そしてついにひみつ道具名にも登場することとなるのである。道具の効果自体は昔からそんなに変わらないのだが、そこに加わる説明に時代が反映される。こういう部分からも、『ドラえもん』という作品の連載の長さを実感することができる。

・③植物を制御するもの

これには、主に農業・園芸のジャンルのひみつ道具が属する。ひみつ道具が植物の生育をコントロールする。「(趣味の)日曜農業セット」「オールシーズンバッジ」「季節カンヅメ」「オールシーズン花だん(※ハツメイカーで製作したもの)」「赤松山と松たけの菌糸」「花ぞのボンベ」「植物の元シリーズ」などが挙げられる。どれも、ふつうの植物の生育に影響を与えるひみつ道具だが、共通するのは“時間の制御”ではないだろうか。「日曜農業セット」は半日で野菜を育てられるし、「オールシーズンバッジ」「季節カンヅメ」は季節に関係なく桜を咲かせたりすることができる。おそらく植物自身の時間軸をコントロールする機能が備わっているのだろう。(そうするとこれらのひみつ道具はタイムマシンなどの“時間制御系ひみつ道具”にカテゴライズされるべきだとも言える)。

さて、「(趣味の)日曜農業セット」は、植物系ひみつ道具の中でも最も多く登場

したひみつ道具である（三回）。イネを二回、サツマイモを一回育てている。農業と関係がある、というよりも、農業そのものである。農業そのものといえば、『白ゆりのような女の子』『昔はよかった』などでのび太はリアルな農業も体験しているのも面白い。

● ドラえもんと環境問題

・ 環境問題と時代の流れ

さて、ここからが本題である。『ドラえもん』において、植物に関係する環境問題はどのように扱われているのだろうか。

日本の歴史における環境問題のスタートは明治以降の公害問題と言って良いだろう。1971年に環境庁が設立され、以後は世界的に石油問題、絶滅動物問題、砂漠化問題、気候変動問題など多様な環境問題が話題になり、平成に入ってから地球温暖化防止行動計画が決定された。森林・植物と環境とが強く結びつけられて考えられるようになるのはこの頃からである。現代では、森林の話をする、即、環境の話になるほど、その結びつきは強いものとなっている。連載期間の長い『ドラえもん』において、環境問題はどのように語られているのだろうか。

まずは上記の表から環境問題を直に扱った話を選んでみよう。

『さらばキー坊』（1984年）：

地球植物を絶滅（人間による森林伐採）から救うべく植物型宇宙人が襲来。キー坊が動物と植物の助け合いや人類のこれからの努力を語り、侵略をやめさせる。

なお、この年、ドラえもんのカラーをグリーンにした“グリーンドラ”を前面に出した自然応援キャンペーンが行われた。テレビアニメのエンディングテーマも自然との触れ合いを歌った「ぼくたち地球人」に、『さらばキー坊』掲載と同じタイミングで変更（1984年4月）。

『アニマル惑星』（1989年）：

裏山を開発してゴルフ場にする計画に反対し緑を守る運動に参加したのび太のママが、森林伐採、砂漠化、エネルギー問題、地球温暖化、環境汚染について語る。そして環境汚染が進行したニムゲの星の現状の描写。

『ドラえもんがいなくてもだいじょうぶ!』（1990年）：

森林伐採、二酸化炭素濃度増加による気象変動、動物の絶滅についてのセリフあり。のび太としずかで苗木を高井山に植えに行く。十年後の様子を見に行ったところ、現在よりも緑が増えていた。

『雲の王国』（1991年）：

オゾン層破壊、大気汚染、酸性雨、エネルギー問題、絶滅動物問題、自然破壊が全編にわたって取り上げられる。ラストシーンでは、僕たちの手で地球の緑を守り、きれいな自然環境を取り戻そう、というメッセージが語られた。

1991年の『雲の王国』が、いままでのすべての環境問題の総まとめのごとく、様々な環境問題を取り上げているのが分かる。なお、植物以外ではたとえば『モアよードーよ、永遠に（1978年）』で絶滅動物を扱っているし、他の藤子F作品では、『征地球論（1980年）』で人間社会の破滅論議でエネルギー問題が取り上げられたり、『絶滅の島（1980年）』で人間の乱獲による絶滅動物の諷刺がなされたりしている。

こう見ると、世の中の環境問題のメインピックスの変遷に合わせて、藤子F作品内でも、絶滅動物問題やエネルギー問題から、森林伐採、そして二酸化炭素濃度増加による温暖化問題へと全体的にシフトしているのが分かる。

・植物を扱っているからといって環境問題がテーマなのではない

前項を読んで、「あれ？『みどりの守り神』は？」と思った読者も多いだろう。少年SF短編の『みどりの守り神（1976年）』は、秘密兵器として培養した新種の細菌が世界に伝染し、全地球上の動物を絶滅させてしまった結果、植物相が劇的に変化した世界を舞台にしたストーリーである。植物は炭酸ガス（二酸化炭素）を吸って酸素を吐くから、動物が絶滅すると炭酸ガスが不足し、植物にとってもピンチである。植物にとっては動物のカムバックが必要なのだ、という論理をメインに据えている。

実はこの酸素と二酸化炭素を介した「動物と植物との助け合い」論理は、『さらばキー坊』の軸となる考え方の一つでもある。この『さらばキー坊』の場合は森林伐採についても触れられているが、『みどりの守り神』では全くと言っていいほど環境問題については語られていない。つまり、『みどりの守り神』は環境問題を提起した話ではないのである。単純に、「もし動物がいなくなればどうなるか？」を描いたSFでしかない。ところが、川崎市藤子・F・不二雄ミュージアムで見ることのできる映像では、藤子・F・不二雄先生自身の口から、『みどりの守り神』が環境問題の観点から語られている。ちょっとこれはおかしい、先生が他の作品（たとえば『雲の王国』）と勘違いしているのではないかと筆者はひそかに考えている。

少し話が脱線するが、この二作品で語られている、呼吸と光合成による「動物と

植物との助け合い」論理は議論の余地がある。作中ではあたかも植物はひたすら二酸化炭素を吸って酸素を吐く、というように描かれているが、植物は光合成で酸素を作り出しているわけで、実際は動物と同じように呼吸もして二酸化炭素を放出しているから、別に動物のカムバックが無くて良い気がする。もっと言うと微生物も絶滅したのかどうかによっても状況は大きく変わってくるという結構複雑なお話である。これに関しては別の記事として一つ書けそうな内容であるので、今回は深く考えないことにしよう。

ところで、『みどりの守り神』によく似たタイトルである 2008 年公開の映画ドラえもん『緑の巨人伝』は、『森は生きている』と『さらばキー坊』の二つを原案としている。この映画は人間活動の影響による森林伐採や地球温暖化、海面上昇などの環境問題を理由に植物型宇宙人が地球を襲う話であるが、テーマはどちらかというよりも、人間と植物との心の交流や戦争の過ちに重きを置いているように感じられる。原案作品の根底にある、裏山とのび太との交流、キー坊とのび太との交流といった“植物との心の交流”の部分を重んじた結果だろうか。

この“植物との心の交流”を物語のキーとして描いた作品には、上記の『森は生きている（1981年）』に加えて『タンポポ空に行く（1979年）』も挙げられる。これらは植物を扱った話であるが、決して環境問題を語ったものではない。『さらばキー坊』でも、後半は環境問題にダイレクトに触れることにはなるものの、前半はのび太とキー坊との交流が主軸である。つまり、1984年の『さらばキー坊』の後半部で初めて植物と環境問題とが結びつけて語られる以前は、藤子・F・不二雄先生の意識としては、植物は心を通わせる対象であり、環境問題を語る手段では無かったのではないかと筆者は推測する。時代が動き、世界的に森林伐採や地球温暖化が話題となるのに合わせて、藤子F先生は植物と環境問題との結びつきを『ドラえもん』に取り入れていったのではなかろうか。こればかりは作者本人に聞いてみたいところである。

● おわりに

話があっちこっちに飛んでいるので、最後にまとめてから締めくくろう。

まず、『ドラえもん』の作品に登場する植物要素と言えば、はじめは植物をモチーフとしたひみつ道具として出てくるくらいであった。しばらくして『タンポポ空に行く（1979年）』『森は生きている（1981年）』でのび太と植物との心の交流が描かれた。

『さらばキー坊（1984年）』では動けるようになった植物であるキー坊との交流も描かれると同時に、人間による森林伐採問題について言及され、これは筆者が調

べた範囲では『ドラえもん』において初めて植物と環境問題とか結び付けられた話である。“グリーンドラ”の自然応援キャンペーンが行われた年でもあり、アニメと漫画とが連動して環境問題への参入を試みたのかもしれない（詳細は分からないが…）。この1980年代からは藤子F作品において、環境問題を取り上げた作品が増えていった。

『アニマル惑星（1989年）』や『ドラえもんがいなくてもだいじょうぶ!?（1990年）』では、ついに地球温暖化についての言及がなされた。これまでは環境問題と結びつけて植物を語る話題は森林伐採や砂漠化くらいだったが、平成時代に入り、世界的にも地球温暖化というトピックスが注目され始め、それが『ドラえもん』にも取り入れられたのである。そして、『雲の王国（1991年）』ではありとあらゆる環境問題が取り上げられた。『ドラえもん』における環境問題はここでひとつの頂点を見ることとなる。

以上より、『ドラえもん』作中において植物を扱った話が多いものの、その中で環境問題を扱ったものは連載後期に偏っており、その話数も少ない、という結果となった。自然環境との調和や破壊というテーマを扱った話が多いと思っていた筆者にとってこれは予想外の結果であった。それだけ、大長編ドラえもん／映画ドラえもん『アニマル惑星』『雲の王国』が筆者の記憶に強く残っているのだろう。